

令和7年度 第1回小淵沢地域委員会会議録

- 1 開催日時 令和7年6月4日(水)
午後2時00分開会～午後4時閉会
- 2 開催場所 生涯学習センターこぶちさわ 軽運動場
- 3 参加委員 藤代富美男、宮沢俊彦、仁科浩一、中山宏樹、茅野博文、茅野キヨ子
今井一夫、佐野恭子、藤原真理、小林努、菊地勝、深澤久、坂本秀樹
- 4 欠席委員 小黑晃、岩波信司
- 5 事務局員 小淵沢総合支所長 渡辺美津穂
地域市民課長 吉田武
地域市民課市民担当 本荘有
- 6 議 題 (1) 令和7年度事業計画について
(2) 地域委員会連絡協議会での連絡事項について
(3) 地域委員会の役割やあり方について
- 7 公開・非公開の別 公開 ・ 非公開
- 8 傍聴人数 0人
- 9 署 名 署名委員 8番 _____
署名委員 9番 _____

1 開会

2 会長あいさつ

最近世の中が分からなくなってきた。判断基準があいまいになってきているが、地域委員会ではできるだけぶれずに物事を進められたらと考える。

3 小淵沢総合支所長あいさつ

地域委員会の目的は、市民と市が協働してより良いまちづくりを行うために、また市政が常に市民の身近にあることを保障し、市民の意思を市政に反映しやすくするため北杜市合併以来設置されている。こうした中20年間が経過し、地域委員会がより活発な組織となるよう、今年度は地域委員の皆様任期を1年延長して、北杜市地域委員会の役割や目的・在り方の検討をお願いしているところである。地域委員会が地域の魅力を高め、地域を盛り上げる活動を担う組織となるよう、皆様から御意見や御提案をいただきながら、新たな北杜市地域委員会となるよう御理解・御協力を賜りたい。

4 地域委員及び職員紹介

地域委員の任期は条例において2年と規定しているが、令和7年度に地域委員会の見直しを行うということで、条例を改正し、任期を1年延長した。今回新たに3名の方に委員をお願いしている。令和7年度は15名の体制で行っていく。

5 小淵沢エリア振興ビジョンについて

(担当課)

担当課から小淵沢エリア振興ビジョンについて説明

(委員)

今まで小淵沢関連のものは野辺山から小海線を絡め3つくらいあった。市主体のもの、ここにもお見えの商工会会長なども入っているが、他の委員会との整合や今まで行ってきたものをどのように反映しているのか。ターゲットは一般的なものであるがインサイト（ここならではの深因的なもの）は何か。インサイトが一番大事であると思う。

(担当課)

いくつかあるビジョンのすみ分けについては、令和4年度末に策定した「北杜市小

淵沢エリア活性化構想」があり、県がビジョンを策定する際にも相談をしている。今回のビジョンでも小淵沢を活性化させるという目的は同じであるが、県のビジョンは高所得者、富裕層といった方々をターゲットにしている。前の構想については、スケートセンターが県から譲渡されたことをきっかけとしており、スケートセンターをどう盛り上げていくかという背景があり、こちらはファミリー層が、周辺のスポーツ・アウトドア・乗馬・美術館等の施設などと連携しどう楽しめるかというところで、それぞれのビジョンでねらいはあるため、以前に策定したビジョンについても活かせるところは活かしていきたいと考えている。インサイトについては県が策定している事業ではあるが、実施段階で市も協力して進めて行くがターゲット、インサイトについては県にも確認しながら進めていきたい。

(委員)

今説明のあった2つのビジョンについても、富裕層と一般庶民層というのは対局的で経済的な価値と社会活動の両立は重要であるため、県とよく議論をして両方が共存できるあり方を考えていただきたい。また、小淵沢のホースショーは市の最大の祭りであるが、小淵沢地域委員会の予算のほぼ半分をそれに充てている。他の活動が少なくなるので市の予算の配分を多くしてほしいということや、馬術関係の方々も厳しいなかでボランティアしているということもこれまで議論にしてきた。今回の振興ビジョンにも関係してくることから、今後の予算配分にも検討いただけたらありがたい。

(委員)

認知度が一番大事だと思う。SNSや全国の地上波のネットを使ってそういう方々を呼び込んでPRしていくということがこれからは大切だと思う。知名度が低ければ話にならないし、東京に近いということは距離的によいと思うため、特に東京圏の方々にPRなどは進めているのか。専門のインフルエンサーなどを使ってPRすることが大切であると思うが。

(担当課)

認知度については、東京圏では認知度は多少あるが、中京圏ではまだ少ないことが数字に現れたものではないかと考えている。観光課においてSNS・インスタグラム等を中心に発信している。ふるさと納税課においてもシティプロモーションという担当を持っており積極的に発信している。インフルエンサーの方にも委嘱する中で活動を行っているが、合併して20年が経過しているところではあるが清里・小淵沢という地名の方が有名であり、北杜はまだ知られていない状況がありPRに努めていく。

(委員)

小海線の赤字を何とか赤字にならないような路線にするために観光課や観光協会において整備や集客に努めてきた。そのような形で今後も進めて行くと思うが、馬術場もクッション性のある砂を入れた。国体や全国大会の規模のものを行っていきけるようにしてってもらいたい。馬の関係もボランティアのような形でやってもらっている。そうしたことも考えて計画して行っていただきたい。

(委員)

今回の振興ビジョンは小淵沢に着目していただきありがたいと思っている。計画期間は10年ということでこれから具体的にどのように進めていくかということについては明らかになってくるとは思うが、小淵沢地区の住民がどのようにこの構想に関わるか、そういったものを時間をかけてやっていくことが大事ではないかと思う。

県の馬術競技場のように正式な競技ができるようなところは全国にもいくつもないと聞いている。これらを核として使い、小淵沢が知れ渡るように、また住民にもプラスになるような内容に変革して行っていただきたい。

(委員)

馬を持っている馬場は厳しい状況となっている。コロナでの来客減少、エサが高騰しているということを聞いている。昨年も1軒廃業している。畜産には補助があるが観光を目的とした馬には補助がないことから、行政・県にお願いしたい。

馬術場の格が上がり国際競技大会が開催できるようになった。スポーツ庁が国体の経費縮減ということを経験しており、東日本で行う国体は全て小淵沢で実施するというようなことを国へ要望してもよいのではないか。来年は青森国体が小淵沢で実施される。それに続く関東、東北エリアの国体は全て小淵沢で実施する、ということでスポーツ庁に要望していただきたい。

(担当課)

乗馬クラブの状況は市としても認識している。4年連続で畜産農家の支援を行ってきたが昨年馬を加えた経過はある。財源については国のコロナ影響緩和交付金を活用し支援している。今後も国の動向を注視していく。

馬術競技場活用については、担当課に伝えていく。

(委員)

アニマルウェルフェアは山梨県が一番進んでいる。アニマルウェルフェアは世界の

潮流であり山梨県は認証制度を持っている。そのような視点がインサイトの一つでもあり、小淵沢馬術場が他の馬術場と一歩違うということが出せたらよいと思う。

(委員)

なぜ小淵沢の振興策が馬なのか。

(担当課)

古くから小淵沢は馬のまちとして進めてきており、歴史的なものも考える中で多くの方から小淵沢は馬がいいのではないかと、との発想に至っている。

(委員)

業界別売上等の試算によるということではないのか。

(担当課)

そこまでは実施していないものとする。

6 議題

北杜市地域委員会設置条例第8条2項の規定により、会長が議事を務めることとしているため、藤代会長が議長を務め議事進行。

(会長)

議長を務めさせていただく。活発なご意見をいただきながら有意義な委員会となるよう、ご協力をお願いします。この会議は、北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第2条公開の原則に基づき開催されている。本日の議事内容には、非公開情報は含まれていないので、公開とする。また、傍聴人はいないので、このまま進める。

次に、議事録署名人の選出を行う。8番茅野キヨ子委員、9番今井一夫委員にお願いする。

(1) 令和7年度事業計画について

(議長)

事務局に説明を求める。

(事務局)

小淵沢の予算使途提案事業の事業内容について、令和6年度の実績と、令和7年度

の予算額を総括表としてまとめている。令和6年度については、予算額に対し決算額を記載している。予算額に対しての執行率は99.4%となっており、ほとんどの事業が実施された状況である。次ページは地域活性化活動支援事業の内訳で、令和6年度事業の実績及び収支の報告を添付している。令和7年度の予算使途提案事業の内容は、小淵沢駅周辺イルミネーション事業、すずらん祭りの2つの事業が令和7年度の新規事業となっている。小淵沢地域委員会の今年度の事業としては、昨年10月に新たな白州の消防署の見学を行っており、本年度についても地域委員会の研修を実施したいと考えている。実施時期も昨年と同様に秋頃実施を考えている。地域委員会だよりの発行も行っていきたいと考えている。作成時期になったら、作成のご協力をお願いしていく。

(議長)

本件について意見、ご質問はあるか。

(委員)

ホースショーは予算が厳しいとの意見があったが、精査しながら行ったということはわかっているが残額があると次の予算取りが難しくなり、マイナスになってしまっ
てはいけないと思うので説明をお願いしたい。

(事務局)

ホースショーについては67万8千620円が返還され精算されているが、事業は実施され精査していく中で差額が生じてきたものと認識している。

(委員)

餌代などに使っていけるようにしていただきたい。

(事務局)

実行委員会にその旨を伝えていく。

(委員)

地域活性化支援事業の内訳があるが、各地区の予算額に対し決算が少ないという地区もあるが、どのような理由によるものか。また予算額については均等割と世帯割の比率がわかれば教えていただきたい。

(事務局)

比率については世帯割の方が大きな配分となっているが正確な数値については後日

お伝えする。実施した事業については実績報告の内容を確認していただければわかるかと思うが事業は実施したが残額が発生したということで精算し返還をしたということで認識している。

(議長)

均等割と世帯割の比率について、数年前にその議題があつて結果的には均等割を4割にして世帯割、つまり活動の実態に即した支給額にしようということで6割ということで記憶している。地区で差額の大きかった地区に関しては突発的な理由で事業ができなかったのか、経常的にこのようなことなのか、ということだけは確認していただき、必要であれば世帯割の比率をもう少し増やすなりの検討措置が必要なのではないかと思う。

(事務局)

原因について調査・確認を行っていく。

(2) 地域委員会連絡協議会での連絡事項について

(議長)

事務局に説明を求める。

(事務局)

5月27日に市役所本庁で開催された地域委員会連絡協議会での各部局からの依頼、連絡事項について連絡、共有する。

北杜市上下水道事業審議会からの答申内容について令和4年に水道料金と下水道料金の改定についての諮問を北杜市上下水道審議会に諮問し、この4月25日に答申書が提出されたとの内容で、答申の内容としては、水道料金の改定が必要であるとの判断に至り、平均改定率25.3%の値上げの改定とすることのほか、令和14年度に8地区の料金統一、経過措置の適用などの意見集約がされたとのことである。今後、6月議会定例会において説明を行うとともに、8地区で順次市民説明会を開催するほか、パブリックコメントを実施する予定です。資料は答申の内容等を記載しています。内容について詳しくは、上下水道局上下水道総務課にお問い合わせいただきたい。

また北杜市では公式ラインにより防災情報や道路の損傷通報などができるので活用をお願いします。

(委員)

答申案が出されたが議会でどのような議論がされたのか、どのようなことが問題だったのか。例えば一本化するというのは近隣の市町村で言えば一本化しているところもあればしていないところもある。料金体系を必ずしも一本化していないというのが現状だと思う。そういうことについて議会でもいろいろな議論がなされており、地域委員会は直接的には議会とは関係はないかもしれないが、地域委員会がどういうことが問題か、ということについて考える素材として、議会としては何が問題なのかということをお明らかにしてもらえればと思う。意見です。

(事務局)

ご意見として承る。また地区説明会も予定されていることから意見を寄せていただければと考える。

(議長)

白州と武川の地域委員会ではすんなりこの議題は終わらない内容と思われる。その他あるか。

(委員)

市のラインは2年前から行われていて活用している。一番の情報源として実体験として皆さんにもお伝えしたい。

(3) 地域委員会の役割やあり方について

(議長)

事務局に説明を求める。

(事務局)

北杜市の地域委員会については、今年度において来年度以降の地域委員会のあり方を検討するというところで、委員の皆様の任期を延長し検討していくこととしたところである。先日開催された地域委員会連絡協議会においても、今まで以上に地域の魅力を高め、地域を盛り上げる活動を担っていただけるよう、本年度は地域委員会の役割や目的、あり方を検討していく旨が示された。地域委員連絡協議会において、今後のスケジュール案が示されたが、各地域委員会からの意見、提案を、総合支所事務局と本庁事務局で情報共有を行い、調整や整理、方針の検討を行っていくことが予定され

ている。例年、地域委員会連絡協議会は年2回開催してきたが、今年度は6月から11月頃までの間に、各町地域委員会と事務局で検討を重ね、検討結果などを連絡協議会に報告するスケジュールとしている。直近で8月に会長・副会長が集まる連絡協議会を行う予定だが、この際に一度、各地域の意見を取りまとめたものが示されるものと思われることから、それを受けて再度、各地域委員会において協議を行っていくスケジュールが想定されている。こうした検討を11月まで進め検討結果をもとに11月に、来年度の予算使途提案事業の準備、翌年1月には予算使途提案事業の市長ヒアリングを実施し、3月定例議会に予算案を上程していく予定としている。このようなことから、今回は、各地域委員会からの意見、提案を、総合支所事務局と本庁事務局で情報共有を行い、調整や整理、方針の検討を行っていくことを予定しているため、委員の皆様から、今後の「北杜市地域委員会」、地域委員会全体に対しての意見、また、これまで各地域の地域委員会が活動していく中での課題や改善点などの意見をいただきたいと考えている。なお、本日欠席の委員については事務局から意見を伺いたいと考えている。

(議長)

5月27日の連絡協議会は、各町の会長、副会長、市長以下部長職等総勢で50名ほどの大きな会議であった。議事としては令和7年度地域委員会予算使途提案事業ということで、私から小淵沢はこういうことをするという話をした。部局からの依頼事項は先ほどの話を含めたもので、3番目に地域委員会の役割やあり方について、4番目がその他となっており、新しく11月に市長が当選されて地域委員会は残して活動を続けるということ話をされてから、いわば改めた取り組みということで理解をした上で期待をして行った。結果このスケジュール表1枚である。ということは、私たちとしては地域委員会はどのように持っていけばいいのか、どうあるべきなのか、ということを含めて真摯に考えていきたいというふうに思っている。そこで今日はいきなりで大変申し訳ないが、短い時間だが3分程度で考えを話いただければ幸いである。

その前に委員から文書を預かっている。会議の始まる直前だったため内容は読んでいないが、本会議の中で使うものとしては、文書は皆さんが一人ずつ思うところを書く大変になり事務も混乱するので委員の考えも尊重の上、退出時に持ち帰れるように置きたいと思うので、参考に読んでもらいたい。文書というのは一方通行の意見という性格を帯びてくるので私の言った方法をとらせていただきたい。

それでは、地域委員会はこうありたい、こうあるべきだ、できたらこうしたいというものも含めて3分程度でお願いします。

(委員)

小淵沢町の地域委員会のやり方は非常によくやっていると思う。地域委員会としてどのようなことをやっていったらいいかも考えるがまず、ヒアリングをするということとは8町の中でも小淵沢のみだと思う。公金なのでそれをちゃんと使っていただければ、という形で一つ提案だが中間あたりで代表者の方に相談していただき現状どのように進んでいるか、使われているかということについて聞いてみたい。結果が出て会計がゼロになっていればいい、という問題でもないと思うので、本当はマイナスになってもう少し何とかならないかという意見もあればいいのではないかと。

(委員)

最初は地域委員会はよくわからなかった。このメンバーを見ると例えば団体のトップであるとか、トップであるから事業の内容は知っている訳なので、この場に出てくるのはいいことだが、逆に素人の私たちが発言するときに事業のトップの方がいるので批判しづらい。トップを入れるということではいい。メンバーの選定がこれでいいのかどうか。事業の内容を知っているという点ではよいが、非常に言いづらい。メンバーの選定を例えば区長とかそういう方をメンバーに入れてもよいのではないかと。現状でもよいが公平な立場で言いづらい感じがする。

(委員)

地域委員会に期待するものとして、今まで市長が諮問するということが全く形骸化されていて諮問がされたことがない。市が処理する事務について意見を述べる、ということもあるが、それが議題に上ることもなかった。予算執行はそれぞれの地域委員会でやっていけばいいことだが、その大枠を決めるようなことについて、市政について意見を述べるということが私は本来地域委員会が設置された意味だと思う。今一番市政の中でウエイトを占めている中学校の問題を言うと私は2つにする必要はない、あんなに大きなものを作る必要はない、小さなもので十分ではないかと思う。養老孟司という東大の先生は少子化こそいいチャンスだと言っている。10人20人の生徒を見るのは非常に目が行き届いていいのではないかと。部活とかがと言うが部活は広域で行うしかないので、私は野球部であれば2、3か所集めてやるとか、そういうようなことが必要なのではないかと思う。市庁がどこにくるかということが市民にとっては大きな問題である。小淵沢であれば今の市庁であれば行くのに30分以上かかるのは問題である。やはり北杜市の中心にないと市庁や役に立たない、不公平感がある。そういう問題を取り上げてもらいたい。観光協会から言えば、観音平の清掃をしているが高齢化で観光協会の会員も5、6人しか出てくることができないし、山岳会も5、6人という程度で行っている、とても観音平を清掃しろと言ってもなかなか

難しい。昔は小淵沢町全体で行っていた訳でこれは行政が音頭を取らないと成り立たない。来年からどうしようかという状況になってくると思うのでその辺も考えていただきたい。

(委員)

1年しかやっておらずよく分かってはいないが、事業内容にあるように小淵沢の特色あるものに取り組むというのが地域委員会として有意義であると思っている。各町の事業も載っているが、共通するものがいっぱいある。除雪やお祭りなど。こういうものは、私たちの地域委員会の事業に入れるのがいいのかどうかということを感じた。1回目出たときもほとんど市の方で計画して割り振りだけということであったので、そこをスリム化して、たぶんプラスマイナスあると思うが、地域に根差したものの、その住民に補助金というかもっと掘り起こし、小淵沢独自のものがもっといっぱい出てくるようなそういう地域委員会になったらいいと私は思う。

(委員)

私が思うには、補助金はその地域の人のためというか、皆さんがよりよく生活ができるような形のを私の中では考えていた。各地域の活動支援内容があるが最近思うにはここに予算が出ているが、義務化されているような、予算があるから何かしなければならぬ、地区の役員もやっているがそのような形になっているのではないかと思う。コロナの前と違って来たと思っている。これだけの予算をもらっているから何がなんでもやらなきゃならぬ、とかではなくその地域ごとにお祭りならお祭りをもうちょっと賑やかにするなど、実際、うちの地区にはお祭りはないが子ども数も少なくなってきたのも事実であり子どもクラブも来年で休止しなければならないという状況の中でずっと子どもクラブも続けているがそういうところで、子どもに寄り添っての事業とかももう少し手厚くしていただければと思っている。

(委員)

地域委員会は評価と尺度によって浅い、深い、軽い、重いという形に変化するのでもそういうことを考えて進めていただきたい。地域委員会は当初私が思ったのは身近な話題を話し合っていくということが大事だと思う。大きな課題、テーマは審議会や議会でいろいろ議論されていく。共通する話題はあるが私たちが生活している地域の中のどういった問題点があるのか、どうしたらいい生活が送れるかというような話などそういうものを考えていくのが大事なのではと思う。大きなことを考えることも大事だが身近なところから考えていくということが大事だと思う。こういう会議を通じて意見を気軽に述べられるようなこういう場にしていきたいと思う。なかなか会議

でも発言ができず終わってしまうという方もいると思うが、こういったふうに一人一人一言でよいから発言をしていただくということが大事なことだと思う。そういうことによって皆さんの気持ちや和らいでいろいろと問題提起をされると思う。地域委員会の当初の目的としては、市長が諮問する事項に審議して答申するということがあるがこれも今までなかった。ということは、あまり地域委員会があってもお呼びじゃないよというようなそんな感じにも受け止められます。そうは言っても活用してもらいたい。市民からすると、会でやってもらいたい提案事項、提言をさせていただき、そういうことで会を運営していただきたい。

(委員)

2期4年委員をやりまだ分かってはいないが一つ思うのは、今の委員の半分は団体選出と私は学識経験者ということで出ているが、決して選ばれて出てきている訳ではないというか、昔の小淵沢町で言えば小淵沢の議員がいて小淵沢のあり方を選ばれた方が決める、ということがあったと思う。私が小淵沢の住民として出ているので小淵沢をどうしていくかという意見は言えるが代表にはなっていない、という気持ちがある。その立場で何が話し合えるかと言ったときに私が分かる範囲で言えば、小淵沢で行う事業のこれはいいのではないかと、これは盛り上げていこうということの精査をするという今までの会議で話し合ってきたことは有意義であると思うし単年度でしかやらない事業についてもそういったものを入れるとかいう話も必要であると思うし、逆に今ある事業は必要か。一律で予算をあげようという時があったが一律であげてしまったらこの事業はそんなに必要ないのに、ということも正直あった。一律で上乘せがよいのか、ということもその時は思ったが小淵沢の事業としてどうかということを一住民の立場で意見を言うのが地域委員会なのかなと思う。その中で団体選出の選び方も文化協会が入っているが体育協会が入っていない、とかこれでいいのかと思うところがある。学識経験者もなぜ選ばれたのかというのがある。メンバーが固定化してしまうと考え方も固定化してしまうとも思うので、その辺は今のメンバーは1年なので柔軟に考えて一住民の立場で言うのがいいのかと思う。あと女性はわきまえて聞いている立場の方がいいのではないかと聞いた方もいるが、女性も増やしていければ女性の意見も採っていただければよいと思う。

(委員)

補助金をいただいてそれをいろいろな行事に振り分けているが、これはこれからも皆で精査すべきものがあるのではないかとと思う。水道の話とか中学校の統合の話とか今までの年度のときにそういう話題が出ていたかどうかはわからないが、そういうことの結論を地域委員会で出すのではなく、地域委員会ではこんな話題が出た、こんな

ふうにしてほしい、ということをぜひ市役所の皆さんに上にあげていただく、そういう話し合いの場としてこの会議を使ったらいかがかと思う。

(委員)

それぞれ特色のある8町村が一緒になったと思っているので、北杜市になってからもそれぞれの特色は活かしていくべきだと思っていたので、こういう会があって小淵沢の特色を皆で考えていくことができるのはよいと思っていた。ここに出ている事業のいくつにも私も参加させていただいており、補助金のおかげで運営できてきているものもあると思う。私も家族含めて恩恵を受けているがこれまでずっと楽しませていただいている。中にいると続けなければというただその思いでやってきているところもあるので、また一歩皆さんの意見を聞いたら嬉しいと思う。

(委員)

個人的に大和神楽の保存会に在籍しているが、20万円が付いてきているがずっと6万円の時代があり6万円でどうやって継承していくのかということがあり、地域からも補助金や助成金なしで御厚志頼りでやってきた。年を追うごとに崇敬者・参拝者も減りとてもではないが維持できないという状況で20年程やってきた。自分たちが役員をやらなければならない時期に入ってきたときに会長、副会長が2年程で交代していたが、このままただ交代だと会の方向がぶれてしまうというか、熱がある人と温度差があるというか、そういったことがあるので、会長は会長として複数年やってもらい、実働部隊は何人が会長を支えるという形に変えた。そのようにしたらいろいろな意見が出てきて、後継者を育成するのにこういうイベントをやったらどうかということで、子ども用の入門講座をやり始めたり中から活性化したと思った。中から変わってそれを会長が見て支援したらいいということで補助金を要請していると思うが、中から変わっていかなければいけない、ということを実感している。ただ時代の流れに流されて無くなったならそれでもいいのではないかと、という方も地元にはいるが、江戸時代からやっているものを人がいなくなったからと言ってやめていいのかということで、他の地区から入っても継承された方がいいのか、それとも人が少なくなって止めた方がいいのかということ、今の活動に批判的な意見をお持ちの方に質問するが、話してみると継承した方がいいという方に落ち着く。だから今活動しており、できれば支援をしてくださいという話をしているが、個人的な話だが、現状そのような形で地域の魅力になっているかはわからないが、昔の活気があったときのようなところまで戻せるかどうかはわからないが、自分たちの中から光みたいなものが出てくればいいな、というようなことを行っている。

(委員)

支所からの通知で議題が書いてあり、地域委員会のあり方は問題になっていたの
で、そのために先ほど資料にまとめてきたと言っていたが、私も1枚にまとめたので
それを後で同じように配布してもらいたい。3つ程言いたいことがある。1つは公募
でやりたいと言って参加したのは、ここの地域のことが話されているかどうかという
ことに疑問を持ったからからである。というのは消防署の分署がなくなるということ
について、このような大きな命に係わる問題が地域委員会で話されないということに
ついて、前から言っているが、私は疑問を持ったので地域の問題で、結論は別として
話し合う機会がなければ、ということでここに公募したという経緯がある。2番目だ
が、こういうことが地域委員会で解決されなければならない、ということに触れさせ
ていただく。地域委員会は地域委員会設置条例が基本であり、第4条が変わらなけれ
ば今までのこととは変化はない。1は市長が諮問する、2が市が処理する事務、3が
市長が委任する事務、その他当該区域外、つまり小淵沢以外の区域ということ。この
4つのことが変わらない限り、地域委員会というものは条例であるから変わらない。
まずはこれを何とかしなければだめである。私たちは地域の問題について、どんなこ
とでもよいから話し合う機会というのは地域委員会の意義だと思う。それをどうする
かということは行政の問題などいろいろあるので、それは様々は方法があると思う
が、そこが一番大きなところだと思う。それが何とかできたら今回変えていっていただ
きたい。それが今までの地域委員会の存在がだめだという、変えなければいけない
という大きな理由であり、存続させる意義はそこにあると思う。もう一つ、私は公募
だが、第3条に公共的団体等を代表するものとある。2番目に学識経験者、3番目に
公募、4番目にその他と書いてある。私が一個人だったら学識経験者とは何だろうか
と疑問を持つ。こういうことであれば、市民の信頼というものは私はないのではない
かと思う。いづらいかもしいないが、一般市民が見ているのはそこだと思う。地域
委員会に地域の人たちがどういうことに期待をしているのか、どういう要望を持って
いるのか、例えば消防署のことを言ったが、保育園が統合されることもここで話され
なかった。それから社会福祉協議会が人がいなくなる、まったく今一人も常駐してい
ない、そういうことが起こってきている実態の中から、何とか皆でよい地域を作って
いくとか力を合わせよう、というのがここだと思う。

(委員)

今回の開催に際し、効率的な委員会の進め方を事前に事務局と何度か意見を重ね
て、例えば先ほどのビジョンの組み入れとか議題の組み入れとか反映してくれたこと
に感謝する。「段取り8歩」の運営ということで、すごく資料も変わった。あえて要
素すると、事前に配布していただけたら皆ちゃんと考えてこられる。今回の一番の要因
は「地域委員会のあり方のスケジュール」だが、私は連絡協議会、地域委員会、事務

局のあり方、3つについてこれまで意見は述べてきた。一番大事な連絡協議会の回数が増えたということではあるが、私は難しいと思う。20年間やってきて今の形なので、条例の問題もあるがこういった形の「会長が全て集まるとか50名集まる」というだけでは無理ではないかという懸念がある。たまたま今日、北杜市のフードバレー協議会の資料をいただいた。韮崎から諏訪の6市町村までいろいろな情報を集めて提案しているが、一番北杜市が進んでいるのがフードバレー協議会である。200名くらいで運営委員の方々はきちんと決めることをやって2ヶ月に1回、1時間半で決めて皆さんに情報発信して、本当に素晴らしく私も全国に発信している。そういったお手本があるから、連絡協議会のあり方も参考にして、その中にプロジェクトとかミニプロジェクトといったものが必要ではないかと思う。今回一番提案したい有効な意見・提案として、令和5年度の第2回地域委員会の終了後に配布して一部議論した地域委員会公認の有志の会の活動の状況と依頼事項をまとめた。これを活用することが一番よいのではないかという意見である。その意見の理由として5点話すと、1点目、近年これだけ地域委員会の役割やあり方に対してフラットに熱心に議論し、まとめた活動資料はないと思う。こんなに膨大な数、メンバーでやったものである。2点目、この考え方や議論内容は新市政が発信・回答している新たな地域委員会の進め方の課題の方向感と多くの点で合致している。3点目、一からの新たなスタートは現在の地域委員会の進め方ではよい結果を導くのは甚だ困難に思う。本内容はその後の環境変化、例えば今日も小淵沢ビジョン等そういったことを新たに反映させる必要はあるが、昨年度の活動をみても他にこれ以上のたたき台的情報はない。つまり1からではなく、これを参考にすることが現実的ではないかと思う。4点目、令和5年度のこの地域委員会終了後に多くの委員から、適正な内容であるため地域委員会で議論すべきという意見をたくさん聞いた。今回代表者が替ったり新たなメンバー3名の方々はその辺のことは知らないで、これを参考にさせていただくことが大事なのではないか。最後にこの資料は特定の個人を批判するハラスメント的な記載は一切ない。今年からは新市政の方針で支所の管理職、事務局が地元の方で今日いろいろ議論していることもありありと理解され、委員会の改革に有効な体制になったと思う。私のあくまで意見だがこれを見ていただいて小委員会を再設置するのがいいのではないかというのが意見である。最後にお願い事で1点、ハラスメント条例を公にした北杜市だが残念ながら2年間の本委員会ではパワハラ的なことが続いた。これは客観的な解析による回答である。しかし今日のこの進め方や皆さんの意見を聞いてトラウマが解消でき参加できることを期待してよろしく願います。

(委員)

皆さんの話は大変心強く感じた。その意味は住民の意思を尊重して行政に反映させ

ることが地域委員会の役割だという、根底にあるものを皆さん充分に考えているということだと思っている。地域委員会設置条例については、先程来何回か触れられているが、私は他のものは見ないで第1条だけを見ている。一番のポイントは、「市民が市と協同してより良い地域づくりを行う」ということ、そして「市政が常に市民の身近にあることを保障するため」に「市民の意思を市政に反映しやすくするように設置する」のだということを書いている。これは非常に崇高な条文で、北杜市の条例の中ではよいと思っている。皆さんから出た話は、全て私の考えと触って嬉しいと感じるのは、例えば団体の代表者っていいのか、という素朴な疑問があって、利益相反になりうる可能性もある、つまり事業の予算配分について。予算配分するのが地域委員会の主たる役割ではない、と私は考えている。どうすべきか。地域の意見をそれぞれすくい上げるような形を取って、つまり委員構成を変えて、例えば下笹尾の方、大東豊の方はいないが、女取、篠原はいるという偏りがある。全地域小淵沢のエリアをある意味で網羅して、意見をあげられるように人選、委員構成が今後必要ではないかというのが私の考えである。それによって地元の意見をあげて、それを地域委員会で話し合っただけで支所と話し合い、支所が企画課あるいはそういうところと話し合っただけで、ということで形成して作りあげていく、これが地域委員会の本来あるべき姿ではないか、というのが私個人的な考えである。是非これは進めたいと思い、この間の地域委員会連絡協議会時に少し言ったが、変えたくないというようなことも言われたが、それがだめなのでは。つまり変わらなければ、そういうことなのだと思う。そのようにやっていくべきではないだろうか。旧態依然のままいくというのは好ましくないし、やはりどんどん変えて地域の意見をあげて、困っていることに対して行政に言えない人がたくさんいる訳であるから、民生委員的な役割ではないが、組織として動くべき、あるいはシステムとして変えていかなければならないことは、地域委員会の出番であろうというふうに思う。今あることが必ずしもよいことだけではない訳で、そういう視点を持って活動をし、日々の動き、町の中がどのようになっているか、ということを見ながら活動していきたいと思っている。

(議長)

いろいろ3分間の制約をかけ申し訳なかったが、貴重な意見をいただけよかったと思う。事務局に今のこの内容については、皆さんが話していただいたことを企画課に持っていき、企画課で各8町の意見をまとめ、また作って返すということだがそれから先がどのようになるかはわからない。

(4) その他

(議長)

次のその他に入る。私から提案がある。市で行っている委員会の中でかなり重要だと思われる指定管理者候補者選定委員会というものがある。去年は私が参加した。事業者が要望を出したものを審議する、続いているものについては更新のときに審議をし、経営状況等を確認し、予算等できるだけ詳らかにして意見を出し合う。メンバーは各地域から選出された8人で、基本的には地域委員会から選出ということで地域委員会から出ている。その他税理士2名、市から副市長、企画部長が出ている。進行の議事運営は管財課が運営するが、感想を言うと市民として参加するのは非常によいと思った。私一人が何年も出席するものではないという思いをし、是非皆さんの中からやってみたいという方がいらしたらお願いしたいと思い今日この話をさせていただいた。いろいろ私たちが知らないようなことで実は市が委託をして指定管理者としてやってもらっているところは結構ある。市の運営に深く携わるということもありもしあれば挙手をお願いしたい。

(3名挙手)

(議長)

後ほど協議させていただき連絡するというのでよいか。調整させていただき連絡する。

(議長)

その他何か意見があるか。

(委員)

地域委員会のあり方として重要な問題だと思うが、日程で8月に今日の中身の回答があるのか。

(議長)

連絡協議会ではどのようにするという具体的な説明は残念ながらなかった。私が支所から聞く話によると、ここに出たいろいろな角度から出た話を企画課にあげ、企画課で8町の意見をまとめる。

(事務局)

本日の意見を本庁企画課と情報共有し、他の地域委員会からの意見も合わせ市の方向性をある程度出していく。ある程度出たものを8月の連絡協議会の中で示していくというスケジュールと聞いている。それまでには集めた意見の方向性を示すことができるのではないかと考えている。

(議長)

8月の連絡協議会の前にフィードバックされるということか。

(事務局)

そのように想定している。

(議長)

委員が不安に思い質問されていると思うが私も同様で最初の会議時に何もなかった。最低限物事の進め方としては広げるのではなく、こういう感じのものをということを示した中でそれを中心に議論をしていくことが方向性が付けやすい、ということを見越した進行をしているので、私も非常に不安である。皆さんも同じような考えだと思うので、それを事務局が持ってまずは企画課に言っていただくということをお願いしたい。

(委員)

ということは、9月に次の会を行うということか。

(議長)

9月かどうかはわからない。

(委員)

次に原案らしいものが出ればそれをここでもう1回話し合いをする機会を持つということか。

(事務局)

8月の連絡協議会でフィードバックがあるはずであるため、フィードバックがあったものについては小淵沢の地域委員会にフィードバックしていく。

(議長)

タイミングとしては8月の連絡協議会の前に各地域にフィードバックし、それを地域の委員会が揉んでさらに連絡協議会に持ち込むということはあるかないか。

(事務局)

まとめたものを事前に各地域委員会にフィードバックできるのであれば議論をしてそれを持って連絡協議会に臨むということではできると思うが、その余裕がない可能性

もある。

(議長)

8月の連絡協議会でまとめたもの話がある、ということが一番考えられるところか。

(事務局)

8月の連絡協議会でフィードバックされたものを協議をするというのが确实ではある。

(委員)

いつもは2回しかなく、話し合いがなければ私たちが1年延長された意味はないと思う。次の地域委員会がどのようになるかということが一番大きな任務である。そこを發揮させてもらいたい。

(議長)

重ねて事務局から伝えていただきたい。どの町も同じことを言っていると思う。

(委員)

議事メモはいつも1か月半かかっている。すでに録音文字変換機もあり3日もあればできる。一昨年以來これだけ熱いものが今回でできた。議事録も1か月半もかかり他のところは開いても出ない、それも誰も気が付かない、という議事録になっている。私が2～3日のうちに議事メモ案を事務局に届けるので皆さんにそのことを届けたり、不参加の方の意見も聞いたりし、まとめてほしい。今の行政の仕事からすると難しいと思うが、難しいというスタンスから変えていただきたい。また出来たら夜の開催の方がよい。また議事録などを付けて返すのが次への参画への礼儀であるから、そういった会議のあり方とかフィードバックの有効活用など図っていただきたい。

(議長)

今の話の中で開催時間について伺いたい。この時間帯か夜かどちらがよいか。

(委員)

私は農業に携わっているのでできれば今のような時期は夜の時間帯に開催してほしい。

(委員)

いろいろな充て職等の会議に出席するのが昼であり重なってしまうことがあるため、できれば夜の方がよい。

(議長)

事務局において、今後の開催については意見を参考に開催していただきたい。

(委員)

議事録のまとめは非常に重要である。

(委員)

協議会の内容についても重要で関連しているのでぜひそれもお願いしたい。

7 閉 会 副会長

午後 4 時 1 0 分終了